

インボイス制度実施に対応した 請求書の印刷

来年(2023年)10月から
インボイス制度が導入されます。

インボイス制度とは、

適格請求書(*1)と呼ばれる一定の要件を満たす請求書のやりとりを通じインボイス(*2)を受け取った者のみ、消費税の仕入税額控除をできるようにする制度です。

(*1) 従来の請求書の記載に加えてインボイス登録番号や税率ごとに区分した消費税額の記載が必要です。

(*2) インボイスを発行するには税務署長に登録申請書を提出しインボイス発行事業者としての登録と登録番号の取得が必要です。



適格請求書のご準備はお早めに!

弊社では適格請求書の印刷と、印刷用のデータ作成が可能ですので、是非お声かけください



株式会社 宏和

Kowa Corporation

東大阪市長田東 1-7-22 TEL 06-6789-2313 FAX 06-6789-2339

<https://www.d-kowa.co.jp/>

<https://scanning.jp/>

オンデマンド印刷 会社案内、パンフレット、チラシ、名刺、カード、封筒、シール、伝票、表彰状
冊子印刷 取扱説明書、カタログ、記念誌、広報誌、報告書、論文、自分史
電子化業務 紙文書・紙図面スキャン(電子化)サービス、データエントリー(入力)、データコンバート
CAD業務 CADデータ出力、CADデータ入力(トレース・設計)、電子納品データ作成
コピー・製本 大判コピー、カラーコピー、各種製本、ラミネート、パネル・看板制作
その他 人材派遣、人材紹介、マイクロ撮影、マイクロフィルムスキャン、WEB制作

(株)宏和が毎月お客様へお役立ち情報をお届けします。

コウワ/ワ

MONTHLY NEWS LETTER Vol.85

2022

10
October

コウワ/ワ 10 Vol.85

発行者：株式会社宏和

所在地：〒577-4001 大阪府長田東1-7-22 TEL 06-6789-2313

(株)宏和

長く暑い夏がようやく終わり、やっと涼しい風が吹くようになりました。同様に値上げラッシュも少しクールダウンしてほしいのですが、コロナ同様なかなか終わりが見えない感じです。話は変わりますが、今月は弊社の決算月ですのでラストパートで頑張りたいと思います。

代表取締役 日笠宏昭

今また人気再燃の「岡本太郎」の言葉

「展覧会 岡本太郎」大阪展が7/23から10/2まで大阪中之島美術館で行われました。行かれた方もあるのではないのでしょうか。次は東京展、その後愛知展と続き来年3月まで開催されます。閉塞感が漂う現在、芸術の粋を超えて、人間・岡本太郎が人々の心に響くのではないかと思います。今月は岡本太郎の言葉を抜粋しまとめてみました。

- なんでもいいから、まずやってみる。それだけなんだよ。
- 大体、いちばん素晴らしい絵を描くのは4、5才くらいの子どもだよ。
- 苦勞した作品より、ひとりでにどんどん進んでしまったもののほうが、いつでもいい。
- 芸術は創造。それのみ。
- 思い切って、のびのびと踏み出してみる。そして人間的な自由とはなんであるか、その飲びをみずから発見するんだ。

- 自分の姿をありのまま直視する、それは強さだ。
- 人に理解されたり、よろこばれようなんて思うな。むしろ認められないことを前提として、自分を猛烈に突き出すんだ。
- 創り出すことと年齢なんて、関係ないよ。
- 他人のものはもちろん、たとえ自分の仕事でも、なぜってほならない。
- ひとが「あらいいわねえ」なんて言うのは、「どうでもいいわねえ」と言っているのと同じなんだよ。

- 絶望のなかに生きることこそが、おもしろい。そう思って生きる以外にない、それがほんとうの生きがいなんだ。
- 制約が多いとみんな悩んでいる。だが、制約があるからこそ、自分のしたいことを貫くのがほんとうの行動になると思う。
- 孤独であって充実している、そういうのが人間だ。
- いつも自分自身を脱皮し固定しない。そういうひとは、つねに青春をたもっている。
- 自然に生き、自分の気持ちをほんとうに伸ばしてゆこうとすれば、まず、いたるところで残酷に、壁に突きあたる。

- むかしの夢によりかかったり、くよくよすることは、現在を侮辱し、おのれを貧困化することにしかならない。
- 人間というのはいつでも、周囲のさまざまな状況に対して抵抗を感じ、孤独なんだ。
- 人間の運命というものは、99.9パーセントが成功しないのだ。成功者でないほうがより人間的な運命だ。
- 誤解される人の姿は美しい。人は誤解を恐れる。だが本当に生きる者は当然誤解される。誤解される分量に応じて、その人は強く豊かなのだ。誤解の満鑑師となって、誇らかに華やぐべきだ。
- よく、あなたは才能があるから、岡本太郎だからやれるので、凡人にはむずかしいという人がいる。そんなことはウソだ。やろうとしないから、やれないんだ。それだけのことだ。

- 相手に伝わらなくてもいいんだと思って純粋さをつらぬけば、逆にその純粋さは伝わるんだよ。
- 自分を賭けることで力が出てくるんで、能力の限界を考えていたら、何もできないよ。
- 人生に命を賭けていないんだ。だからとかくただの傍観者になってしまう。
- 人生は積み重ねだと誰でも思っているようだ。ぼくは逆に、積みへらすべきだと思う。財産も知識も、蓄えれば蓄えるほど、かえって人間は自在さを失ってしまう。
- ぼくは口が裂けてもアキラメロなどとは言わない。

- 孤独感を持っているのはキミだけじゃない。人間全部が孤独感をもっている。
- 過去はとかく美化される。だから正しい、というのは老人の感傷以外のなにものでもない。
- ほんとうの調和というのは、お互いに意見をぶつつけ、フェアにぶつかりあうこと。
- 自分らしくある必要はない。むしろ「人間らしく」生きる道を考えてほしい。
- 自分がこの親の血をひいているなんて考える必要はまったくない。たまたま、偶然に生まれてきただけで、あまりこの親から生まれてきたとか考えない方がいいんだな。

- 中年を過ぎると、人生に対する意気込みがにぶるものだ。その結果、生命が惜しくなってくる。これは人間としての墮落だね。
- むしろ、「成功は失敗のもと」と逆に言いたい。その方が、この人生の面白さを正確に言いあてている。
- 心を入れ替える、なんて言うのは卑しい

●岡本太郎 プロフィール●

1911年、東京生まれ。岡本一平・かの子の長男。東京美術学校に入学するもすぐ中退、30~40年までパリに住む。数々の芸術運動に参加する一方、パリ大学で哲学・社会学・民俗学を専攻、ジョルジュ・パタイユらと親交を深める。戦後、創作活動を再開、現代美術の旗手として次々と話題作を発表、70年の大阪万博テーマ館「太陽の塔」は国際的な話題となった。1996年没。文筆活動も多く、数々の著作を残している。

<出典>

強く生きる言葉 岡本太郎 (イースト・プレス)
壁を破る言葉 岡本太郎 (イースト・プレス)
芸術は爆発だ! - 岡本太郎痛快語録 - 岡本敏子 (小学館文庫)
自分の中に毒を持って 岡本太郎 (青春文庫)

